



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'98 3月号

証言で綴る平塚空襲

『市民が探る平塚空襲』証言編制作中です



昭和20年9月の平塚市（平塚駅付近）

昭和20年7月16日から17日未明にかけ、平塚市はアメリカ軍による大規模な空襲を受けます。B29爆撃機132機によるこの攻撃は、一晩で44万7,716本もの焼夷弾が投下されました。その数は、一人あたり8.2本におよび、全国で二番目に多い数になりました。この空襲による被害は本宿・新宿・須賀・馬入の旧市街をはじめ、高根・山下・南原・中原・真土・四之宮・横内・入野・長持、大磯町大磯・寺坂、茅ヶ崎柳島・中島・円蔵・赤羽などの広範囲におよび、少なくとも死者は300人以上、旧市街地では全戸数の70%が焼失しています。

博物館では、平成元年、市民の皆様の協力を得て「平塚の空襲と戦災を記録する会」をつくり、「平塚大空襲」の実態解明に着手いたしました。それから早いもので9年という歳月が経ってしまいました。その9年目に「平塚大空襲」の実態について、空襲を体験された方々の証言を中心にした記録集が作られるようとしています。

どのような体裁になるの？

平塚大空襲の記録集は、書名が「市民が探る平塚空襲証言編」という題になりました。内容は、空襲体験者134名の方の体験証言によって綴られています。体験証言集ですから題名は「市民が語る平塚空襲」とした方が実際に即しているのかも知れません。

ところで、編集は幾つかの問題点を整理して章だてを行いました。そのため、証言内容によって配列を考えました。また、聞き取り調査は、はじめから意図的に調査を進めたものではありません。したがって、章

だてした項目については、今後、調査していくべき課題が、ようやく浮き彫りになった段階です。その意味で、これからも空襲体験者の聞き取り調査を進めていく必要があると実感し、書名を「市民が探る平塚空襲証言編」としたのです。

体裁は、A4版という大きなサイズです。頁は306頁になる予定です。

部数は1,500部です。出来るだけ多くの市民の皆様にお読みいただけるように安価にご提供できるようにと考えております。

証言からわかる新しい事実？

空襲体験者の証言から幾つかの新しい事実が指摘できるようになりました。

その一は、平塚空襲にあたり米軍が投下した焼夷弾の種類についてです。当初、平塚空襲で投下した焼夷弾は、米軍の記録からリミット・マグネシウム焼夷弾(M50)を110本結束したM17が3,691発、M47と呼ばれる大型油脂焼夷弾が6,951発、投下されたと確認されていきました。ところが、空襲体験者の証言からは小型油脂焼夷弾であるM69の投弾もあったと確認されたことです。このM69は38本が結束され、E46として投下される焼夷弾です。このことから、平塚の全投下焼夷弾本数447,716本という数は訂正する必要が出てきました。もしかすると、平塚に落とされた全焼夷弾本数は、44万本を上回る場合も考えられるのです。

以下4ページに続く

村

普段何気なく「集落」とか「村」という言葉を使っています。簡単な言葉のようですが、使われた時代によっては若干意味合いが異なるようです。

村は「ムラ」は「ムレ」とほぼ同義の古い言葉です。「イエムラ（家村）」「クサムラ（草村）」などの用例があり、すでに記紀や風土記の中に見られます。人々の群居定棲するところを旧くから「ムラ」といい、それに「村・邑」あるいは、「村落・集落・邑村」などの字を充てる伝統は旧く、里・村里・田舎などの語もまた同義に用いられました。一方、イチ（市）やマチ（町）は本来祭祀や物資交易のために臨時的、定期的に人々が群集する「場（ニワ）」であって、多くは寺社の所在と関連しています、やがてそこに密集した集落が形成されると、それを「町・市」と呼ぶ分けることになりました。統治の中心地には、別個に古代のミヤコ（都城）をはじめ、地方ごとの国衙・郡衙の所在地に官人などを中心とする集落も形成されて行きました。「村」は「町・市・都」に対して農民主体の集住地だけをさすようになります。現在使われている学術的用語としては、広く人々の定住するところを「集落（社会）」、「都市（社会）」に対応させては「村落（社会）」ということにおちついています。都市と村落の本質的差は、基本的には定住する人々の生産＝生活様式が「土地」自体を直接の基盤にするか否かにかかっています。以上が『国史大辞典』の「むら」の項の要約です。

さて、今回の考古部門の展示替えでは、時代ごとの「集落の暮らし」の展示から、時代を通観できる「もの」とおして4つのテーマを選び、「集落の暮らし」を考えてみました。

生活を語る土器

遺跡の調査では必ずと言っていいほどに、土器がでてきます。縄文土器の出現は煮沸具と言われるように、食生活の上での画期的な道具の出現です。その後、貯蔵具、食器など様々な用途に分化してきましたが、土器のもつ本質は現代社会まで受け継がれています。原始・古代に使われた土器の交流や生産地を取り上げて、その時代の暮らしを考えます。

道具の歴史

石器から始まった道具は、金属器（銅・鉄）の渡

来・導入により、集落の景観は一変します。自然に準拠していた縄文文化は衰退し、稲作の農耕を主体とする弥生文化が耕地拡大のために自然に立ち向かい、近世まで続きます。道具の歴史を見直すことは、その時代に生きた人々の歴史を明らかにすることでもありません。その時代・時代に生きた人々が残した道具の歴史は今何を語ろうとしているのでしょうか。

まつりの世界

祭祀・祭り・葬送儀礼を含めてのまつりの歴史です。まつりは人間の人間たる精神的な喜怒哀楽の世界をものによって表現します。人が亡くなったときの悲しみ、地震・火災などの災害に対する不安・恐怖。様々な心の変化を具体的な形で現れるのが、「まつり」です。そのために、願いや祈りをこめた特別な遺物が使われます。原始・古代人の暮らしの中から生まれた「まつり」の一端を探ります。

相模国府を探る

村と対になる都市は奈良時代からはじまります。中央の都に対して、地方には国府・郡衙が置かれました。相模国府については様々な見解が出されてきましたが、近年の考古学の成果から、相模国府が平塚の四之宮周辺に所在していたことが明らかになりつつあります。その成果をとりあげて相模国府の実態に迫ります。ご期待下さい。



博物館は2月より2階展示室の展示替え工事をおこなっています。5月には2階の展示室が11年ぶりに一新されます。展示は、海、大地、村、都市という4つのサブテーマで構成されます。

都市

都市と生物

平塚市には、駅の周辺のように都市化が進み、ビルが立ち並んだ地域と、土屋や吉沢のように昔ながらの景観をよく残した地域が見られます。都市化の進み方の違う地域で、動植物を比較してみると、そこには大きな差があります。タンポポでは、市街地にはセイヨウタンポポやアカミタンポポが見られますが、丘陵地にはカントウタンポポが多く生えています。カエルでは市街地で見られるのはヒキガエルだけですが、水田の残っている地域にはいろいろな種類の声が聞かれます。この展示は、そうした動植物の小パネルを地名を手がかりに地図の上に並べていくクイズ形式で作ってあります。並べ終わったところで、地域による動植物の種類の違いを観察してください。ついでに平塚の地名にも強くなりましょう。

都市のコーナーは、「失われるもの」「地震と平塚の地盤」「都市と生き物」「昭和の暮らし」で構成されています。

失われるもの

都市は、その時代の要求により、姿を微妙に変化させてきました。その変化は人為的に作られる場合が多いといえます。そうした変化の激しい場所を、海岸、街、田園、川、丘陵地に求め、それぞれの変貌した姿を具体的に「古い写真」と「今の写真」によって探り、その理由を考えて見ようと思います。



地震と平塚の地盤

私たちの生活する平野の地盤はどのようになっているのでしょうか。地震という側面から見るとどうなのでしょう。このコーナーではそうした疑問に答えるべく、平野の地形と地盤について、液状化と活断層について、今後起こることが予想される大規模地震について解説します。平塚地域の地盤を地点ごとにコンピュータで検索できるシステムを用意しますので、自分の住む土地の地盤の様子を調べてみて下さい。過去の地震被害を検索するシステムや、実際に地震計も据え付け地震の波動もお見せします。

昭和の暮らし

昭和の元号は、本来、国際協調と世界平和を願って制定されたといえます。しかし、現実には、国際孤立化と戦争への道を当初から歩むものでした。平塚の都市形成は、軍需産業と密接な繋がりの中で形成されたといって過言ではありません。その結果、太平洋戦争末期の昭和20年7月、米軍の大規模攻撃に曝されます。このコーナーでは、戦争と直結した平塚の歩みを平塚大空襲に焦点を合わせ、その実態に迫ってみました。

博物館カレンダー

3月の行事予定

1	日		民俗探訪会	(上吉沢)
8	日		地質調査会	(館外)
12	木		石仏を調べる会	
14	土	◎	漂着物を拾う会 天体観察会「まとめ」	(海岸) (館内)
15	日		相模川の生き立ちを探る会 古代遺跡を探す会	(上野原)
26	木		石仏を調べる会	
◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制				

4月の行事予定

5	日		相模川の生き立ちを探る会	(大山三峰)
		○	自然観察会	(野外)
11	土	○	こども観察会 地質調査会	(土屋) (野外)
12	日		民俗探訪会	(上吉沢)
19	日		地質調査会	(館内)
26	日		古代遺跡を探す会	(野外)
◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制				

●漂着物を拾う会

期日：3月14日（土）
 時間：午前9時30分～11時
 場所：花水川平塚側河口
 参加自由

■休館のお知らせ

二階展示室の展示替えに伴い、休館中です。

期間：2月2日（月）～4月30日（木）

なお、博物館にご用のある方は電話で、または1階事務室までお越し下さい。

その二は、平塚攻撃のために侵入したB29の侵入経路についてです。

B29は、平塚市の中心から半径1.2kmの範囲に全投下焼夷弾数の50%を投下できるようめざし、ほぼ真南から平塚上空へ侵入したと記録されます。ところが、最初に侵入したB29（先導機という12機）は、南西方向から侵入し、平塚上空を北東方向へ抜けたと証言されることです。このことから、何故、茅ヶ崎市にも投弾されたかを考えることが出来るようになりました。

この他、B29の機銃掃射についても、その可能性

を否定できない体験証言などが得られています。

このように、残された記録だけではわからなかった事実が、戦後53年を経た今、大勢の方々の体験証言により少しずつ解明されるようになりました。体験者が語る平塚空襲の実態は、残された記録資料に勝るとも劣らない貴重な資料であることを「身をもって体験」することができたわけです。

平塚空襲の実態を正しく伝えるため、悲惨な戦争体験を忘れないため、「市民が探る平塚空襲 証言編」が少しでも役立つものになることを願っています。

あなたと博物館

22巻 12号 通巻253号 発行 平塚市博物館 2500

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949

平塚市博物館 平成10年度の 行事参加者の募集

●申し込みは、往復ハガキに住所・氏名・電話番号・年令(学年)・18歳未満の方は保護者名をお書きの上、それぞれの会宛にお送り下さい。

〒2540041 平塚市浅間町12-41 平塚市博物館「・・・」係

——年間会員の募集・1年を通して参加できる方を対象にした行事です。——

●平塚の空襲と戦災を記録する会

●活動内容：平塚の空襲と戦災に関する資料の発掘や聞き取り調査、戦災地図作成等を目的とする市民の会です。

■活動予定：毎月第3土曜日 13:00～15:00

■活動場所：博物館特別研究室

★申込〆切：3月31日

●相模川の生い立ちを探る会

●活動内容：相模川流域の大地の生い立ちを、人々の生活とのつながりを考えながら探ります。県内各地の野外観察を行い、その結果をまとめて会誌「グリーンタフ」を発行します。

■活動予定：月1回(日曜日)

4/5, 5/31, 6/28, 7/18, 8/23, 9/20, 10/25, 11/22,
12/20, 1/31, 2/28, 3/28

★申込〆切：3月25日

●天体観察会

●活動内容：流星群、星食などの天文現象を観察したり、天文台の見学を通して天体観察のための知識と技術を学びます。

■活動予定：5/16, 6/13, 8/4, 8/12～13, 8/15,
22 10/24, 11/14, 12/12～13, 1/9, 2/13, 3/27

■参加対象：中学生以上

■参加定員：20名程度

■備考：活動が夜間中心の行事となりますので中学生・高校生は保護者の承認が必要です。

ガイダンス 5月16日(土) 16:00～21:00

★申込〆切：4月20日

●古代遺跡を探す会

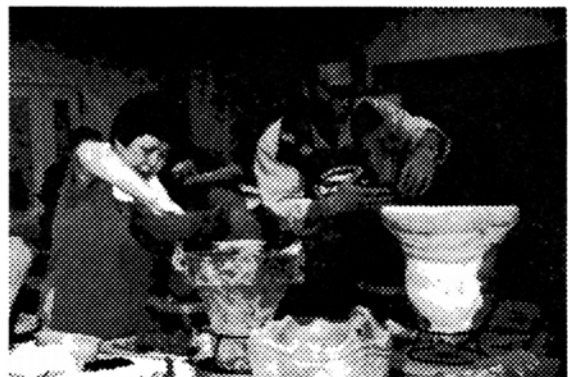
●活動内容：市内全域の遺跡分布調査を実施して遺跡の基礎資料の充実を図ります。

また、資料を整理しながら遺跡や考古学に関する知識を学びます。

■活動予定：月1回(日曜日) 4/26, 5/24, 6/21, 7/19,
8/16, 9/27, 10/18, 11/15, 12/27, 1/24, 2/21, 3/21

■参加対象：小学生以上

★申込〆切：3月25日



●民俗探訪会

●活動内容：「西相模のムラを歩く」というテーマに沿って、平塚市上吉沢から足柄上郡方面の民俗文化を調べます。

■活動予定：4/12, 5/10, 6/7, 7/5, 8/2, 9/6, 10/4,
11/1, 12/6

■活動場所：野外

★申込〆切：3月31日

開催毎に参加者を募集する行事です

●自然観察会

●活動内容：四季折々の自然を訪ねる会で、春夏秋冬各2回の開催です。平日と日曜日の開催ですので、都合の良い方に参加できます。

■活動予定：4/5, 7/12, 11/8

■活動場所：野外

★申込〆切：各回ごとにご案内します

●こども観察会

●活動内容：小中学生を対象にした自然観察会。

■活動予定：4/11, 6/14, 8/9, 10/4, 12/12, 2/14

■活動場所：野外

★申込〆切：各回ごとにご案内します

●体験学習

■開催予定：

家紋だこ 5/2 縄文土器 8/11-13, 26

地形模型 8/25, 27, 28

葉ソウリ 11/15 おかざり 12/13

宇宙を写そう 2月

★申込切：各回ごとにご案内します

●夏休み自由研究相談会

●活動内容：自由研究のテーマ設定、研究の進め方などについて、博物館の学芸員がみなさんの質問にお答えします。当日、会場まで直接お越しください。

■開催予定： 7/24, 8/21 9:00～12:00

★参加自由。7、8月広報でご案内します

●自然観察入門講座

●活動内容：街の石材

■活動予定：7/30, 31

★申込切：夏にご案内します

●みんなで調べよう

●活動内容：ツバメの巣を調べます。

■活動予定：ガイダンス 5/17 観察会 5/23
まとめ 7/18

★申込切：4月広報でご案内します

●考古学講座

●活動内容：一般市民対象の考古学の入門講座。「もの」の交流から見た平塚

■活動予定：10/3, 10/24, 11/7, 11/21

■参加定員：80名程度

★申込切：9月広報でご案内します

●漂着物を拾う会

●活動内容：平塚海岸で打ち上げられた動植物や人工物を集めて調べます。

■活動予定：月1回（主に奇数月の第2土曜日）

9:30～11:00 海岸で漂着物収集

13:00～15:00 博物館で整理作業

★申込切：随時

●ろばた話の会

●活動内容：県内に語り継がれてきた昔話と伝説の語りを行います。

■活動予定：毎月第3日曜日

★参加自由。毎月広報1日号で案内します

●星を見る会

●活動内容：博物館の望遠鏡を使って四季の星空や惑星、星雲、星団を観察します。

■活動予定：5/2, 7/30, 8/6, 8/27, 10/23, 11/27, 12/18, 1/22, 2/26, 3/19

■活動場所：博物館科学教室・屋上

★参加自由。毎月広報1日号で案内します

★プラネタリウム

■一般投影予定：

毎週土・日曜日（夏冬春休みは水木土日曜）の一般向け投影内容です。

5月2日～7月12日 天の北極

夏休み（7月18日～9月6日）流星雨の降る夜

9月12日～11月8日 注目！しし座流星群

11月14日、15日 しし座流星群の見方（特別投影）

11月21日～1月10日 ミラ型と呼ばれる星たち

1月16日～3月7日 虹・太陽の光

3月13日～5月2日 彗星が海を作った

観覧料 100円（大人も子どもも同一料金です）

★広報：当月広報でご案内します

●特別展

■開催予定：【夏】相模国府とその世界 7/18～8/30

【秋】平塚の仏像展 10/10～10/25

【春】鉱物と化石展 3/11～4/11

入場自由

★広報：当月広報でご案内します

●寄贈品コーナー

■展示予定：

新資料紹介 5/1～7/12 戦災と空襲 6/12～7/30

考古 8/1～9/10 実習生 9/18～10/30

生物 11/1～29 地質 12/1～27

婚禮道具 1/5～2/14 天文 2/16～3/30

★広報：当月広報でご案内します

平塚市博物館

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:31-3949